

平成28年度りんご技術情報（第1号）

大崎農業改良普及センター
平成28年6月

<生育状況>

本年の生育状況は、発芽期から満開期まで平年より早く推移しました。3月の好天により、発芽期は平年より10日早い3月28日となりましたが、開花期以降の生育は緩やかになり、満開期は平年より4日早い5月5日となりました。

5月は、初旬に強風の日が続きましたが、その後は高気圧に覆われて晴れた日が多く、順調に生育しました。6月9日時点の果実径は開花期が早かったことと、開花後も高温傾向で推移したため、平年に比較して肥大が進んでいます。

表1 平成28年 生育経過（発芽期～落花期）（調査地点：色麻町）

品 種		発芽期	展葉期	開花始	満開期	落花期
ふじ	本 年	3/28	4/12	4/30	5/5	5/11
	平 年	4/7	4/18	5/5	5/9	5/15
	平年差	-10	-6	-5	-4	-4
ふじ	前 年	3/30	4/16	4/28	5/2	5/8
	前年差	-2	-4	+2	+3	+3

※平年差・前年差の-は平年・前年より本年が早いこと、+は遅いことを表す。

表2 平成28年 果実の肥大状況（調査日：6月9日，調査地点：色麻町）

品 種		タテ径	ヨコ径
ふじ	本 年(mm)	35.4	30.3
	平 年(mm)	27.7	24.0
	平年比(%)	128	126

<栽培管理>

○仕上げ摘果

- 満開60日後まで（色麻町・南山「ふじ」は7月5日）を目安に終了するようにしましょう。

※果実肥大が平年と比較して進んでいるので平年より早めに作業が終わるようにしましょう！

- 標準的な適正着果基準は以下のとおりです。樹勢が強い場合はやや多めに、弱い場合には少なめに加減しましょう

表3 品種別適正着果基準

品 種	着果量の目安	必要葉枚数
つがる, ジョナゴールド, 紅玉	3~4頂芽に1果	1果あたり45枚~60枚
ふじ, 王林, 陽光, さんざ, 秋映	4~5頂芽に1果	1果あたり60枚~75枚

<病害虫情報>

○発生予察情報(病害虫防除所)

6月7日に宮城県病害虫防除所より発表された発生予察情報です。管内では、一部のほ場でアブラムシ類の発生が見られます。ほ場を見回り適期防除に努めましょう。

	発生時期	発生量	予報の根拠
斑点落葉病	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> 巡回調査の結果、発生量は平年並であった。(/ ±) 高温多湿が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない予報となっている。(/ ± ~ +, ± ~ -)
キンモンホソガ	—	やや少	<ul style="list-style-type: none"> 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -) 20~25℃の気温が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年並または高い予報となっている。(/ ± ~ +)
ハダニ類	—	平年並	<ul style="list-style-type: none"> 巡回調査の結果、発生は確認されなかった。(/ -) 高温乾燥が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年並または高く、降水量は平年並または少ない予報となっている。(/ ± ~ +, ± ~ +)
モモシクイガ	平年並	平年並	<ul style="list-style-type: none"> フェロモントラップ調査の結果、平年と同様に誘殺は確認されていない(5月第6半旬現在)。(± / ±) 高温が発生に好適であり、向こう1か月の気温は平年並または高い予報となっている。(± ~ - / ± ~ +) 前年の発生量は平年より少なかったことから、越冬量は少ないと推測される。(/ -)

※予報の根拠（発生時期 / 発生量）

発生時期 (+)：遅くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：早くなる要因 (空欄)：該当せず
発生量 (+)：多くなる要因 (±)：平年並になる要因 (-)：少くなる要因 (空欄)：該当せず

○果樹カメムシ類のフェロモントラップ調査結果

加美郡りんご協議会の協力を得て、色麻町南山および加美町菜切谷で行っているフェロモントラップ調査では、例年より早い5月中旬から誘殺が確認されています。

果樹カメムシ類は、スギヤヒノキの球果など各種樹木の果実を吸汁しながら主に夜間に移動しており、定期的な見回りと防除の必要があります。薬剤防除については近隣の園地と同時防除を行うと効果的であり、殺虫効果の持続期間はネオニコチノイド系薬剤、合成ピレスロイド系薬剤で5~10日、有機リン系薬剤で2~3日とされています。